

# 教 師 ノ ー ト

|                            |                                     |
|----------------------------|-------------------------------------|
| 日付                         | 2014年 4月13日                         |
| 単元                         | イースター                               |
| テーマ                        | 十字架                                 |
| タイトル                       | 十字架につけられたイエス様                       |
| テキスト                       | ルカ23:26-49                          |
| 参照箇所                       | マタイ27:32-56、マルコ15:21-41、ヨハネ19:17-30 |
| 暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) | ルカ23:34                             |
| AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)    |                                     |

## □導入

この前のお話しは、オリーブ山でイエス様が逮捕されたということを学びました。今日は、イエス様が裁判にかけられて、罪がないのに十字架につけられたお話しです。

## □ポイント1 イエス様は十字架につけられました(39-41)

イエス様は、エルサレムの町から少し離れた「ゴルゴタ」と呼ばれる丘に向かって歩いていました。ゴルゴダの丘は、イエス様が十字架につけられる場所です。ローマの兵隊たちに囲まれながらイエス様は歩いていました。

イエス様が十字架を背負って歩くのです。その姿を見ようと、たくさんの人たちがついて行きました。ある人は笑っています。またある人は怒っています。またある人は、とても悲しんでいました。ローマの兵隊たちは、イエス様を十字架に釘づけするために歩いています。二人の強盗も一緒に十字架につけられようとしています。それから、イエス様のうしろに、悲しみながら歩く小さなグループがありました。それはイエス様の友だちで、ついて来たのはほとんどが女の人でした。この人たちは泣いていましたが、イエス様は泣いてはいけなと言われてました。

ローマの兵隊たちは重い十字架をイエス様にかつがせましたが、イエス様は少し歩くと、この重い十字架の下敷きになって倒れてしまいました。イエス様の背中には、むちで打たれた深い傷がありました。十字架を背負うと、その傷に十字架がくい込みました。イエス様は、その痛み到我慢出来なかったのです。それにとっても疲れ弱っておられたので十字架の重みに耐えられなかったのです。

一人の兵隊がイエス様の倒れるところを見て、この十字架を他の人に背負わせました。十字架を背負わされたのは、丁度そこを通りかかったクレネ人のシモンという人です。シモンさんは、兵隊に「おい、ここに来て、このユダヤ人の王を助けてやれ。」と言われてました。シモンさんは、黙って兵隊に従い、身をかがめて、重い十字架をイエス様の背中から移し、自分が背負ったのです。それはシモンさんにも苦しいものですが、シモンさんは何も言いませんでした。

ゴルゴダの丘に着いた時、ローマの兵隊はイエス様を十字架につけました。イエス様は重い木の十字架に釘づけにされました。十字架は地面に掘った穴に立てられました。兵隊たちは十字架の苦しみを取るために、イエス様に酔いぶどう酒を飲ませようとしてました。けれどもイエス様は飲もうとなさいませんでした。

イエス様を十字架につけたあと、二人の強盗も一人ずつイエス様の両側の十字架につけられました。イエス様の頭の上に「これはユダヤ人の王」と書いた札がかけられました。

## □ポイント2 イエス様は十字架の上で祈られました(40-46)

イエス様を憎む人たちは、十字架につけられているイエス様を眺め、からかったり、いろんな悪口を言ったりしました。そして「おい、他の人を救うことができても、自分自身を救うことが出来ないのか。」あれがイ

スラエルの王だって。王様ならいま十字架からおりてみろよ。そうしたら信じよう。」と言いました。人々は大事なことを知りませんでした。それは、イエス様はご自分を救うことが出来るけれど、みんなの罪が赦されるために身代わりで死なれる。ということです。また、イエス様をバカにして、ののしることがどんなに恐ろしいことかもわかりませんでした。

イエス様は十字架にかかっている間どんなに苦しまれたことでしょうか。釘が手に打ち付けられ、血は地面に流れ落ちました。でもイエス様はこの人たちのことを思って、「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。」と言われました。

また、イエス様と一緒に十字架につけられた犯罪人が、イエス様のことをバカにしました。しかし、もう一人の犯罪人は、「お前は何を言ってるんだ。おれたちは自分がした悪いことのために十字架につけられたんだ。でも、この方は悪いことを何もしていない」と言いました。それからその人は、イエス様に向かってお願いをしました。「イエス様。天国にいらっしゃったら、私のことを思い出してください。」この人は、自分がした悪いことを認めて、イエス様を救い主だと信じたのです。イエス様はその人に、「あなたは今日わたしと一緒にパラダイスにいます」と約束なさいました。イエス様を救い主と信じるならば、どんなに悪いことをした人でも、心からおわびをすれば無条件で赦され、主と共にいることができるのです。

### □ポイント3 イエス様は十字架の上で息を引き取られました(47-53)

十字架につけられてから死ぬまでは、何時間もかかりました。真昼だと言うのに夜のように真っ暗になりました。イエス様は最後に大声で「父よ、わたしの霊をあなたにおまかせします」と叫んで、息を引き取られたのです。

一人の兵隊が、イエス様のわき腹に槍を刺して、確かに亡くなっていることを確かめました。イエス様が死んだ時、不思議なことがおこったのです。エルサレムの神殿の幕が上から下まで裂けたのです。これはイエス様が救い主だということを神様が人々に示したしるしです。人々が罪を許される方法は、この救い主であるイエス様を信じることだけです。

十字架の出来事を最初から最後まで見続けていた白人隊長は、イエス様が本当に正しいお方であったことを認め、神様をほめたたえました。

### □結論

罪のない正しい方であったイエス様は、罪人の身代わりとなって罰を受けるという使命を、十字架につけられることによって果たされました。

### □適用（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

イエス様が十字架にかかって下さったのは、私たちを罪から救うためでした。ですから、イエス様のことを「救い主」と言うのです。教会に十字架があるのも、それを見て私たちが神様に感謝するためです。みなさんは、イエス様を自分の救い主として信じますか。神様に赦していただきたいことがあったら、いまお祈りしましょう。神様は、どんな人の罪も赦して、天国に行く約束を与えてくださいます。